



家に風呂がなかったため、通っていた銭湯「皆様温泉」。「改装して外観は変わったけど、前を通るとお湯のいい匂いがするのは変わらない」と山本さん（大阪府門真市）＝枠田直也撮影

高校卒業後に上京するまで、大阪府門真市の古川橋界隈で育ちました。経済的には豊かではなかったけど、おせっかいなおばちゃんやおっちゃんが、人生で大事に教えたことは何かを教えてくれた。自分の核を作ってくれた場所です。



## ふるかわしきわい 古川橋界隈（大阪府門真市）

# おせつかい当たり前

門真といえば、世界のパナソニックのイメージもあるけど、両親と弟の4人で住んでいた京阪古川橋駅周辺は下町。駅前にいくつも商店街があつて、なぎわってました。

暮らしていたのは数戸で一棟という長屋。天井がつながってるから、半分一緒に住んでる親戚みたいなもん。せやから、長屋の子はみんな「う

ちらの子」。誰かが泣いていたら、声をかける。それが当たり前やつたんです。外で悪さして帰ると、もう母親の耳に入ってる。携帯電話もない時代なのに、会社勤めのおやじは、不機嫌な顔を見せたことがなかつた。坂上二郎さんの「飛びます、飛びます」ってギャグをしながら帰ってくる。一緒に

銭湯の「皆様温泉」に行くのが楽しみでした。大人になり、いつ機嫌がよかつたわけを尋ねたら「社会に出たら嫌なことが多い。せめて家は明るい、楽しい場所であってほしい」と。

しゃべりが達者で、小学生の頃は女子に交じって「C君が交換日記してくれへん」あいつの性格はなし」とか相談に乗ってました。ほとんどおせつかいおばちゃん。市立第一中学校（閉校）では、気が付いたら推されてたという感じで生徒会長と野球部のキャプテンを務めました。仲間意識が強く、「あの子とつき合はな」と言わると教師にもキレた。「仲間と食い物を笑いがあれば、いつでもここでもハッピーになれる」と感じてました。



山本 シュウさん 54  
ラジオDJ

やまもと・しゅう 大阪府門真市出身。移住しようと渡った米国で芸能事務所関係者を誘われ、帰国後の1993年、ラジオDJに。2012年からNHK・Eテレ「バリバラ」で司会を担当。「自分に足りないのは爽やかさ」と「レモンさん」を名乗り、レモンのかばり物姿で講演活動も。

世の中の理不尽を知ったのもこの頃。なんかして誰にやられた」と聞いても黙つて友人に「なんと言えへんの」と聞いたら、「お前ら日本人にやらんやで。意味がわからず家で親に尋ねたら、在日コリアンやった。腹が立った。仲間を苦しめる社会を作った大人なんか信用しない。自分の体験だけ信じる」と。

高校卒業後、何か好きなと見つけよ」と家出する形で上京しました。そしたら、東京にはおせつかいがなくてびっくりした。めっちゃ寂しかった。おせつかいってええな、ふるさとはえで町やとわりました。

NHKで障害者や生きづらさを感じるマイノリティ（少數派）のための情報バラエティー番組「バリバラ」の司会をしてますが、フラットな感覚でいたいから、あえて障害や福祉について勉強しないよう心がけています。障害者にも、おかしいと思ったら構いなしに突っ込む。いろんな事情を抱えた友達がいたから、障害や家庭環境のせいにして無駄に困っているような人とも率直に話ができるんやと思います。

親は今も門真で暮らしてます。周りには相変わらずおせつかい人が多い。ホッとしますね。